

第2部

薩摩川内一体化 躍動プランの推進

1 地域力再生プロジェクト	255
2 都市力創出プロジェクト	257
3 交流活力（都市ブランド力向上）プロジェクト	259
4 市政改革プロジェクト	261

薩摩川内一体化躍動プランの推進

- 1 地域力再生プロジェクト
- 2 都市力創出プロジェクト
- 3 交流活力（都市ブランド力向上）プロジェクト
- 4 市政改革プロジェクト

東郷文弥節人形浄瑠璃【東郷】

本市は、平成16年10月、1市4町4村の合併により誕生したまちです。地域住民に最も身近な自治体として、少子・高齢化の進行、高度情報化や国際化の一層の進展、行政に対する住民ニーズの多様化・高度化など、時代の急激な変化に的確に対応しながら、将来にわたって持続的に、住民福祉の向上と地域社会の発展を図るため、また、ますます激化していくと予想される都市間競争を勝ち抜いていくため、この合併は成し遂げられました。

今後は、県内の「地域中核市」の一つである10万人都市として、あるいは、南九州の拠点都市として、これまで以上に多様な機能・役割を担い、九州南西部地域全体の飛躍にも貢献していくことが、内外から求められるものと考えられます。

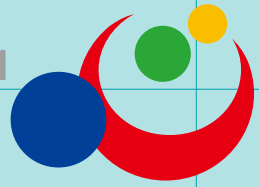
一方、合併前の各市町村においては、長年、貴重な地域資源を育みながら、それぞれの特性や立地条件を活かした個性豊かなまちづくりが積み重ねられてきました。こうした各地域の多彩な価値は本市にしっかりと受け継がれています。

これらを踏まえ、今後の本市のまちづくりにおいては、各地域の歴史に根ざした多様な個性・魅力に更に磨きをかけるとともに、相互の連携を強化することによって、本市全体としての新たな歴史と価値を構築していくことが重要であるとの考え方に立ち、「“地域力”が奏でる“都市力”の創出」を基本理念に据えています。また、この基本理念の具現化に向けて、10万人都市である本市の潜在力を最大限に発揮するため、「市民が創り 市民が育む 交流躍動都市」を目指すべき将来都市像として掲げています。

今後は、この将来都市像の実現を目指して、市民自らが考え、市民自らが地域づくりに主体的に取り組むことを基本としながら、市内各地域の連携の強化、市民の一体感の醸成に資する施策を着実に展開していくことが極めて重要です。

この「第2部 薩摩川内一体化躍動プランの推進」は、基本構想の序論において示した「総合計画における重点的取組」を踏まえつつ、第1部において掲げられたものも含め、将来都市像の実現と本市の速やかな一体化の促進のために重点的かつ戦略的に取り組むべき施策を明らかにしたものです。具体的には、

- ① 各地域が本来持っている地域らしさをこれまで以上に育むための「**地域力再生プロジェクト**」
- ② 本市の持つ都市基盤、生活・産業基盤を市全体で分担・連携する等により、より魅力の高い都市機能を充実させるための「**都市力創出プロジェクト**」
- ③ 本市の「地域力」と「都市力」を活用して、内外との交流を活発化するとともに、本市の魅力に対する認知度を高め、市民一人ひとりが誇りを持てるまちづくりを進める「**交流活力創出（都市ブランド力向上）プロジェクト**」
- ④ 上記の三つのプロジェクトを推進する上での基礎となる、民間と行政との「協働社会」を確立するための改革に取り組む「**市政改革プロジェクト**」



の四つのプロジェクトから成ります。

分野ごとに施策の方向を記した第1部とは別の観点から、各分野体系を横断する、又は複数の分野体系にまたがる重点施策を取りまとめたものが、この「**薩摩川内一体化躍動プラン**」です。

1 地域力再生プロジェクト

本市は、面積が広く、都市機能が集積している地域、緑豊かな農山村や趣のある温泉街地域、変化に富んだ海岸線を有する地域など、多彩な特性を持つ地域で構成された自治体であり、それぞれの特性に根ざした多彩な文化や風土が形成されています。

しかし、市域全体として人口減少が継続し、特に周辺地域においては、過疎化、少子化の進展による小学校の閉校や高齢化による道路・河川愛護活動の継続が困難になるなど、今後、集落機能の維持・存続が危ぶまれる集落が出現し、生活扶助機能の低下、空き家の増加、山林の荒廃、耕作放棄地の増加、交通手段の確保や買い物等の日常生活や地域医療に対する不安、農林水産業等の地場産業の衰退など、市民の暮らしにも直結する課題が生じています。

少子・高齢化の進行に伴う地域経済の活力の低下、福祉サービスに対するニーズの多様化・高度化、コミュニティ活動の衰退等の諸問題に対応するには、その糸口として、市民生活の基盤となる各地区のコミュニティ協議会や自治会、ゴールド集落の活性化・基盤の強化を図ることが重要な課題となります。

そのためには、市民一人ひとりが郷土に対する愛着を抱き、自らの地域は自らが守り、育み、共に支えることを基本としながら、各地域において長年培われ、住民の暮らしの基盤となってきた伝統・文化、自然環境など、個性豊かな「地域らしさ」を最大限に活かし、その魅力に更に磨きをかけていくことが必要です。

また、そうすることで、それぞれの地域が、時流に応じて新たな歴史を刻みながら、新たな価値を生み出し、“活力と豊かさを感じる地域づくり（地域力創造）”を実現することが可能になるものと思われます。

こうした各地域の「地域力」の再生・創出に向けて特に高い効果を有すると考えられる以下の施策を、「**地域力再生プロジェクト**」として位置付け、重点的かつ戦略的に推進します。

（1）個性と魅力ある地区コミュニティ主体の地域づくり【協働・参画】

- ① 地区コミュニティ協議会の活動の充実
- ② 地区振興計画に基づく事業等への支援
- ③ コミュニティ活動等への支援強化

- ④ コミュニティ活動環境の整備

(2) 地域資源を大切にし、ふるさとに誇りを持てるまちづくり【協働・参画】

- ① 地域文化の保存・継承
- ② 環境保全活動の促進
- ③ 優れた自然環境の保全
- ④ 自然環境とふれあう空間の形成

(3) “活力と豊かさを感じるゴールド集落”の創出【協働・参画】

- ① ゴールド集落への支援

(4) 高齢者や障害者（児）等を支える福祉のまちづくり【安心・快適】

- ① 社会保障の充実
- ② 地域福祉社会の形成
- ③ 高齢者福祉の充実
- ④ 障害者（児）福祉の推進

(5) 子育て支援体制の充実による子育てしやすいまちづくり【安心・快適】

- ① 子育て支援・児童福祉の充実
- ② 定住促進対策の推進

(6) 地域医療体制の構築による安心のまちづくり【安心・快適】

- ① 医療体制の充実

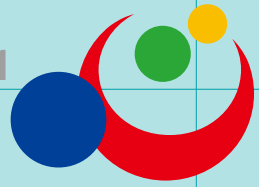
(7) 防災・生活安全対策及び環境対策の充実による安全なまちづくり【安心・快適】

- ① 防災体制の強化
- ② 消防・救急体制の充実
- ③ 自然環境の保全及び公害対策
- ④ 新エネルギーの導入

(8) 豊かな人間性と郷土愛を育む教育の推進【人材・組織育成】

- ① 薩摩川内市教育振興基本計画の策定及び推進

本市の教育における現状や課題を分析し、薩摩川内市民憲章の理念のもと、10年先を見通した本市教育の目指すべき姿と、今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策について示した「薩摩川内市教育振興基本計画」を策定し、本計画を



着実に進めることで、薩摩川内らしい教育を推進します。

- ② 社会の変化に対応した学校教育の推進
- ③ 小中学校の適正規模化等の検討
- ④ 郷土愛を育む教育の推進
- ⑤ 地域に根ざした特色ある学校づくり

(9) 地域づくりを担う人材と組織の育成及びまちづくりへの積極的な活用

【人材・組織育成】

- ① コミュニティ活動の基盤の強化
- ② ボランティア・NPO活動の促進
- ③ コミュニティ活動における市民参画の推進
- ④ 地域全体の総合的な医療体制の構築
- ⑤ 地域福祉の理念の啓発及び活動の強化
- ⑥ 介護者・要介護者への支援の充実
- ⑦ 生涯学習の推進
- ⑧ 社会教育の促進
- ⑨ 環境保全活動の促進<再掲>

2 都市力創出プロジェクト

本市においては、市民生活を支え、産業活動や内外の交流活動の基盤となる様々な都市機能が蓄積されています。平成23年春には九州新幹線鹿児島ルートが全線開通する予定であり、これまで以上に人・モノの流れが活発化するものと考えられます。

また、南九州西回り自動車道の整備が着実に進められており、本市への社会的・経済的効果が期待されています。

このような交通・情報通信基盤の充実等に伴い、市民の日常生活圏・経済活動圏は急速に拡大し、今後、都市間競争は一層激しくなるものと見込まれます。

こうした事態に適切に対処するには、先の合併によって得られた10万人都市としてのスケールメリットを十分に活用することにより、本市全体としての競争力を高めていくことが肝要です。

このため、各地域の拠点的機能の役割分担と連携を図るとともに、快適で利便性の高い社会基盤の整備・充実を進め、魅力ある都市機能の強化に努める必要があります。

また、本市の均衡ある一体的な発展を図るため、過疎・辺地・離島地域の振興策を総合的に展開していくことも重要です。

さらに、「集約とネットワーク」の考え方を基本とし、医療体制の充実や地域公共交

通の確保及び充実、情報通信格差（デジタル・ディバイド）解消に向けた情報基盤の整備などに取り組み、地方圏から三大都市圏等への人口の流出を食い止め、地方圏への人の流れを創出する薩摩川内市定住自立圏の創出に取り組み、“活力と豊かさを感じる地域づくり”を目指すことが重要です。

本市全体としての「都市力」の発揮・創出に向けて特に高い効果を有すると考えられる以下の施策を、「都市力創出プロジェクト」として位置付け、重点的かつ戦略的に推進します。

（１） 社会基盤の整備による利便性の高い都市づくり【安心・快適】

- ① 下水道・生活排水処理対策の推進
- ② 良好な住宅の計画的な整備及び維持管理等の推進
- ③ 道路・交通ネットワークの整備
- ④ 市街地等の整備と拠点づくり
- ⑤ 情報通信基盤の充実

（２） 拠点的功能を活かしたまちづくり【安心・快適】

- ① 産業拠点の整備・活用の推進
- ② 公園緑地の整備
- ③ 土地区画整理事業の推進
- ④ 河川等における環境の保全・整備
- ⑤ 港湾施設の充実及び利用促進

（３） 定住自立圏の形成による均衡のとれたまちづくり【安心・快適】

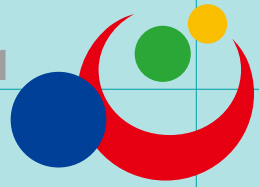
- ① 過疎・辺地・離島地域の振興

過疎地域自立促進計画、辺地総合整備計画又は離島振興計画に沿って、産業の振興、観光の開発、道路・港湾等交通通信体系の整備、生活環境の整備、地域間交流の促進等の施策を総合的に展開することで、過疎・辺地・離島地域の自立を促進するとともに、本市の均衡ある一体的な発展を図ります。

- ② 薩摩川内市定住自立圏の創出

「集約とネットワーク」の考え方を基本とし、“活力と豊かさを感じる地域づくり”を目指すため、医療体制の充実や地域公共交通の確保及び充実、情報通信格差（デジタル・ディバイド）解消に向けた情報基盤の整備などの中心部と周辺部の結びつきやネットワークの強化などに取り組みます。

- ③ 定住促進対策の推進＜再掲＞



(4) 情報通信技術（ICT）の利活用による地域課題の解決【活力・交流】

- ① 地域情報化に向けた施策の総合的な展開
- ② 高度情報通信システムの構築

3 交流活力創出（都市ブランド力向上）プロジェクト

各地域の「地域力」を活かしながら、本市の「都市力」を強化し、10万人都市である本市の潜在力を最大限に発揮するためには、まず、市内の各地域間の連携を強化することで、相乗効果を導き出していくことが重要です。

また、埋もれた地域の宝（地域資源）を掘り起こし、これらに磨きをかけるとともに、市民一人ひとりが地域のことを知り、学び、地域を再評価することで、本市の様々な魅力を積極的に情報発信していくことも重要です。

これにより、全国における薩摩川内市の認知度が向上し、「都市ブランド力」が高まるものと考えられます。

さらに、この「都市ブランド力」を有効に活用し、九州新幹線や南九州西回り自動車道の全線開通も見据えつつ、市外との人・モノの交流を更に促進することで、本市に新たな活力が生まれることも期待されます。

これにより、本市に新たな歴史と価値が構築され、市民一人ひとりが住むことに誇りを持つことができる持続的に発展可能なまちづくりが可能になるとともに、市民の一体感の醸成にも資するものと思われます。

なお、本市の「交流活力」創出、「都市ブランド力」向上に向けた取組を実践する主役は市民です。市民それぞれが協働し、自ら内外への情報発信等を積極的に行うことで、全国に誇ることでできる人材資源が本市に蓄積されます。こうしたまちづくりの中心的役割を担うことでできる多様な人材や組織を育成していくことも重要です。

本市の「交流活力」創出、「都市ブランド力」向上に特に高い効果を発揮すると考えられる以下の施策を、「**交流活力創出（都市ブランド力向上）プロジェクト**」として位置付け、重点的かつ戦略的に推進します。

(1) 都市ブランドの構築による地域連携型観光圏の創出【活力・交流】

- ① 薩摩川内ブランドの形成
- ② 重点品目等の振興及び特産品の開発
- ③ 観光資源の複合的な活用（地域連携型観光圏の創出）

(2) シティセールスの推進による総合的な情報発信【活力・交流】

- ① シティセールスの推進

(3) 農林畜産業及び水産業の振興と地産地消による農山漁村の活性化【活力・交流】

- ① 地産地消・食農教育の推進
- ② 農業の振興
- ③ 林業の振興
- ④ 水産業の振興

(4) 地域特性を活かした交流躍動のまちづくり【活力・交流】

- ① スポーツ・レクリエーション活動の振興
- ② 国際交流の推進
- ③ 国内・地域間交流の推進
- ④ 活力ある農山村社会の形成
- ⑤ 観光の振興

(5) 企業誘致の促進、工業団地の整備及び付加価値の高い地場産業の振興による雇用の確保【活力・交流】

- ① 既存企業の活性化及び新たな企業の育成・誘致の推進
- ② 雇用・就業環境の充実
- ③ 産業拠点の整備・活用の推進＜再掲＞

(6) 市街地の活性化によるにぎわいのあるまちづくり【活力・交流】

- ① 商工業団体への支援の充実、市街地活性化及び地域商店街の経営基盤の強化

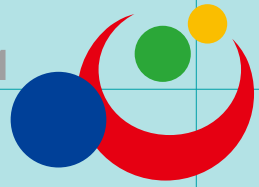
(7) 地域への愛着と誇りを持てる景観形成によるまちづくり【活力・交流】

- ① 美しいふるさと景観の形成

美しく風格のある景観の形成は、都市アメニティ豊かな生活空間の構築に資するのみならず、本市が内外に誇ることのできる新たな観光資源等として活用することも可能であると考えられることから、既存の自然環境、歴史・文化的資源など各地域の特性も活かしつつ、住民の意見も踏まえ、「薩摩川内市ふるさと景観計画」に基づく各般の取組を進めるなど、市民共通の財産となる良好な景観を守り・つくり・高めるための方策を図ります。

(8) 地域の歴史・伝統文化の保存・継承と新たな文化を創出・育成するまちづくり【人材・組織育成】

- ① 地域文化の保存・継承＜再掲＞



(9) 情報発信力を有する多様な人材・組織の育成【人材・組織育成】

- ① コミュニティ活動の基盤の強化＜再掲＞
- ② ボランティア・NPO活動の促進＜再掲＞
- ③ コミュニティ活動における市民参画の推進＜再掲＞
- ④ 地域全体の総合的な医療体制の構築＜再掲＞
- ⑤ 地域福祉の理念の啓発及び活動の強化＜再掲＞
- ⑥ 介護者・要介護者への支援の充実＜再掲＞
- ⑦ 生涯学習の推進＜再掲＞
- ⑧ 社会教育の促進＜再掲＞
- ⑨ 青少年の健全育成
- ⑩ 環境保全活動の促進＜再掲＞
- ⑪ シティセールスの推進＜再掲＞
- ⑫ 情報化を担う人材の育成

4 市政改革プロジェクト

少子・高齢化の進行，地方分権の急速な進展や行政に対する市民ニーズの多様化・高度化など，経済社会情勢の変化に的確に対応しながら，前述した各プロジェクトを着実に展開していくためには，従来のように行政主導ではなく，多様な活動主体を基軸としたまちづくりに向け，市民をはじめとする民間と行政とが新たな「対等と協力」の視点から相互の関係を見直し，適切な役割分担の下でより良いまちづくりを目指す「協働社会」の実現が急務となっています。

まちづくりの主役は市民であり，市民，市民団体，NPO・ボランティア，企業等も責任ある主体として本市の都市経営に自主的に参画することが求められます。

このため，今後は，様々な分野で市が果たすべき役割について抜本的な見直しを行うとともに，民間の活力・能力・資源を積極的に導入すること等により，市民志向の行政改革「市政改革」を進め，持続可能で実効性の高い行政システムへの転換を図ることが重要となります。

こうした改革によって得られた都市の総合力の差が，各自治体における行政サービスの質や地域活力の格差となって現れます。

先の三つのプロジェクトを推進する上での基礎・前提となる市政の改革を実行するための以下の施策を，「**市政改革プロジェクト**」として位置付け，計画的かつ確実に推進していきます。

(1) スピーディで質の高い信頼される行政サービスの提供【スピード・品質】

- ① スピーディで質の高いサービス提供
- ② 実行力と意欲ある人材の育成等

(2) 市民との情報の共有・協働・参画によるまちづくり【スピード・品質】

- ① 地区コミュニティを活かした仕組みづくり
- ② 市民参画の推進
- ③ 男女共同参画社会の形成

(3) 効率的・効果的な組織力の向上【スピード・品質】

- ① 効率的・効果的な市役所組織の実現

(4) 健全で持続的な財政経営基盤の確立【スピード・品質】

- ① 健全で安定的な財政運営の推進

(5) 広聴広報機能の充実によるスピーディな情報発信と市民ニーズへの対応【スピード・品質】

- ① 広聴広報の充実